



麻疹風疹混合ワクチン

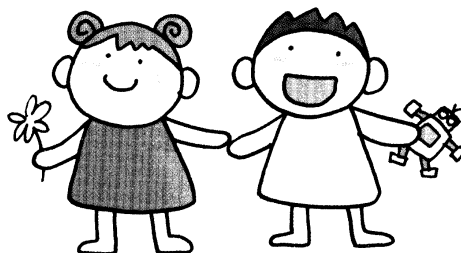
を受ける前にお読みください。

麻疹(はしか)に自然感染したとき

- 麻疹(はしか)は麻疹ウイルスの飛沫(ひまつ)感染によって起こる病気です。感染力が強く、一生のうちに一度は必ずかかる重い病気です。
- 主症状は、発熱、せき、鼻汁、眼やに、発疹です。
- 最初3-4日間は38℃前後の熱がでて、一時治まりかけたかと思うとまた39-40℃の高熱と発疹が出現します。高熱は3-4日で解熱し、次第に発疹も消失します。しばらくは色素沈着が残ります。
- 主な合併症としては、気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎があります。患者100人中、中耳炎は7-9人、肺炎は1-5人に合併します。脳炎は2000-3000人に1人の割合で発生がみられます。また亜急性硬化性全脳炎(あきゅうせいこうかせいぜんのうえん)(SSPE)という慢性に経過する脳炎は約10万例に1例発生します。
- 麻疹は昔から「命定め」と呼ばれている怖い病気です。麻疹にかかった人の1000人に1人は死亡します。わが国では、年間約50人の子が麻疹で命を落としています。現在の医療水準でも死亡することがある怖い病気です。麻疹の経過中に急性循環不全(血圧がストンとさがって、心臓がパタッと止まる)が起きて、あっという間に死亡することがあります。重症化するか否かは誰にも予見できません。

風疹に自然感染したとき

- 風疹はウイルスの飛沫(ひまつ)感染によっておこる病気です。潜伏期間は2-3週間です。
- 軽い風邪症状で始まり、主症状は発疹、発熱、頸部リンパ節腫脹です。眼球結膜が充血することもあります。熱、発疹ともに3日間くらいで治るので、「三日ばしか」と俗称されますが、麻疹(はしか)とは全く別の病気です。
- 血小板減少性紫斑病、脳炎、関節痛などが合併症として知られています。血小板減少性紫斑病は患者3000人に1人、脳炎は患者5000人に1人起こります。
- 年長児や大人がかかると一般に重症化しやすく、3日で治らないことが多いようです。
- 妊娠初期に風疹にかかると、生まれてくる赤ちゃんに心奇形、白内障、聴力障害を引き起こすことがあります(先天性風疹症候群と呼びます)。妊娠年齢までに予防接種を受けておくことが大切です。



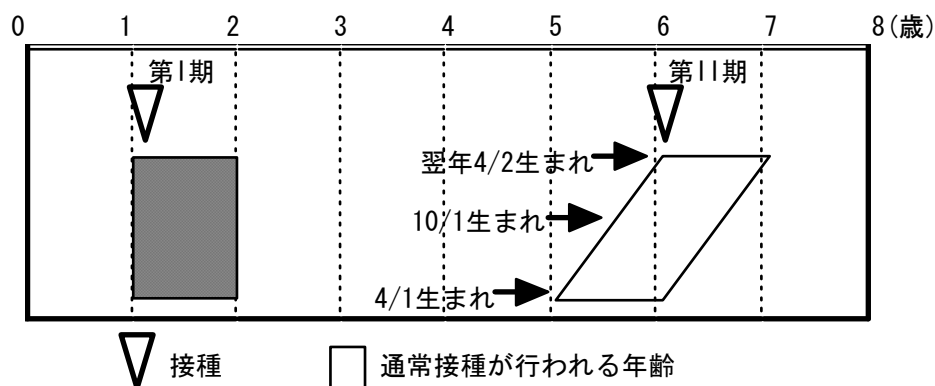
麻疹風疹混合ワクチンの受け方

麻疹風疹混合ワクチンは2回接種を受けます。

第1期:生後12月から24カ月に至るまでの間

第2期:5歳以上7歳未満で、小学校入学の1年前から前日まで

*ただし、麻疹ワクチン、風疹ワクチンをいずれも未接種で、麻疹、風疹のいずれにも未罹患の者



○1歳のお誕生日を過ぎたら直ぐに接種を受けて、1歳のお誕生日にお子さんにケーキやお祝いあげるよりも、麻疹風疹混合ワクチンを接種してあげることの方が重要です。

○接種前3カ月以内に輸血またはガンマグロブリン製剤の投与を、接種前6-11カ月以内にガンマグロブリン大量療法を受けた方は、接種を受けられません。

○接種した95%以上の人が免疫を獲得できます

麻疹風疹混合ワクチンの効果

麻疹風疹混合ワクチンの接種後の麻疹 HI 抗体陽転率は 99.7%、風疹抗体陽転率は 100%です。

麻疹風疹混合ワクチンの副反応

○麻疹風疹混合ワクチンは弱毒生ワクチンなので、ワクチン株が体内で増殖します。接種後4週間は副反応の出現に注意しましょう。

○接種後、37.5以上の発熱が22.3%、発疹が8.6%、注射部位紅斑が5.8%出現します。いずれも接種後5-14日して出現することが多いです。通常は1-2日で自然に治るので、心配ありません。

○発熱が生じた場合には、解熱剤の坐薬を使用して下さい。

○発熱に伴いまれに熱性けいれんが起こる場合があります。過去に熱性痙攣を起こしたことがあるお子さんは、ひきつけ止めの座薬(ダイアップ)を使用して下さい(あらかじめ坐薬を用意しておくといでしょう。当院で処方します)。

○ごくまれに(100-150万人に1人)脳炎の発生が報告されています。

○痙攣が出現した場合、発熱や発疹が持続する場合には受診して下さい。

接種を受けた後の注意

○接種当日はいつも通りの生活でかまいませんが、激しい運動は避けて下さい。入浴は差し支えありません。

○接種した部位は揉まないで下さい。押さえるだけで十分です。わざとこするのはやめましょう。

○麻疹風疹ワクチン接種後は、4週間は他のワクチンを接種できません。



病気の後の予防接種までの期間

○麻疹の治癒後4週間、風疹・水痘・おたふくかぜの治癒後2-4週間、突発性発疹・手足口病・伝染性紅斑などの治癒後1-2週間程度は、予防接種を受けない方がよいでしょう。ただし、疾病流行期はこの限りではありません。

○上記疾患以外で高熱が出た場合には、1週間は予防接種を受けない方がよいでしょう。